

(株) 関東エコリサイクル工場見学会報告 (抜粋)

去る 2018 年 10 月 25 日 (木)、栃木市大平町にある (株) 関東エコリサイクルの工場見学会を行った。

(株) 関東エコリサイクルは、家電リサイクル法に対応し、使用済み家電リサイクルの北関東拠点として、家電 4 品目のリサイクルを行っている工場である。

参加者は、松谷支部長他、全 7 名であった。

当日は、朝から快晴となり、気温も上がって見学には絶好の一日となった。

集合場所は日立アプライアンス (株) 正門で、13:20 までには自家用車、電車で各々が集合した。その後、車 2 台に分乗し、(株) 関東エコリサイクルの新社屋に向かった。本年完成した新社屋は、ペンキの匂いがわずかに残るアイボリー色でまとめられていた。

13:30、玄関を入り、受付け用電話で見学の旨を告げ、見学者受入れ室のある 2 階にあった。2 階では工場見学担当の稲垣様が待っておられ、会議室に案内された。

稲垣様から当日の予定と注意事項の説明を受けた後、家電リサイクルの紹介ビデオが 20 分間程上映された。

ビデオでは、以下の内容等が紹介された。

- 家電リサイクル法について
- 対象となる「家電 4 品目」とは？
- なぜ法律に沿った「正しい処分」をしないといけないのか？
- どのように処分すればよいのか？
- 処分にかかる料金はどれくらいか？
- 使用済み家電品を回収してもらう

次に、本建屋内にて建設中の家電リサイクル工場を見学させていただいた。別棟で現在稼動している設備は 1/3 程度を地下ピットに納めているとのこと。建設中の設備は、地上に設置されているため非常に大きな設備との印象を受けた。新設備の稼動は、来年春からのことである。

この後、現在稼動している家電リサイクル工場内を見学させていただいた。

当工場では、一日の処理量が 204 トン以上とのことであった。

使用済み家電品リサイクルの処理工程のフローは、

『使用済み家電品の受入れ』

→ 『手作業による分別、解体、(冷媒フロン回収)』

→ 『破碎』

→ 『選別 (自動、手作業) (断熱材フロン回収)』

→ 『素材出荷、廃棄物処理委託』

工場内の作業では、使用済み家電品が処理工程に入ってくると、多くの作業員により手作

業による分別、分解がおこなわれ、部品ごとにまとめられて搬出されていた。

洗濯機、エアコン、冷蔵庫の3製品は、処理工程が似ているため平行した処理工程になっていた。洗濯機では重し用の塩水の排出、エアコンと冷蔵庫では冷媒用フロンの回収が行われていた。また、リサイクルされる素材もプラスチックや金属など共通なものが多い工程となっていた。一方、テレビは、ガラスや液晶などの素材があるため別工程での処理となっていた。

分別、解体が終わると破砕工程に運搬される。破砕工程では、冷蔵庫の破砕機を見学した。

冷蔵庫の筐体が破砕機内に投入されると、回転する大型の破砕刃により瞬く間に粉碎されていく様子が監視用カメラを通して確認できた。破砕後は、磁石や風力などを利用して鉄、銅、プラスチック、ウレタンなどの素材ごとに選別、回収されていた。破砕工程以降の設備監視は自動化されており、破砕から選別、断熱材用フロンの回収までの工程の稼働状況が監視盤上にモニタリングされていた。

見学中は、多くの作業員から挨拶を戴いた。また、我々見学者が見学通路を移動している場合、作業中のフォークリフトは見学者が移動完了するまで停止するか、通過経路を変更して作業を行っていた。気持ちよく見学させていただいた。

見学後に30分程度の質疑応答の時間を設定して戴いた。回答には、ご案内役の稲垣様が当たられた。

質問では、リサイクル率の達成状況、リサイクルを容易にさせる設計段階での施策、フロンの回収率などがあがった。

今回の工場見学を通して、使用済み家電品の素材リサイクル率は非常に高くなってきている等の理解が得られた。また、日常、何気なく使用し、買い替える家電品ではあるが、適正に処理を依頼する必要性を改めて認識する機会となり、有意義な見学会になった。

最後に、新社屋玄関内で記念写真を撮り、御礼の挨拶をして散会となった。

担当：河井（56 学金）